

## 第3章

# 土木未来プロジェクト

- 1 豪雨災害対策
- 2 南海トラフ巨大地震対策
- 3 「九州の東の玄関口」の強化
- 4 大分都市圏交通円滑化対策
- 5 道路空間の再生(リボーン)
- 6 武道スポーツセンターの建設
- 7 社会資本の集中的メンテナンス
- 8 建設産業の魅力発信

1 豪雨災害対策

●玉来ダムの早期整備による治水効果の発現

平成29年7月に本体建設工事の起工式を行い、現在、平成30年10月からの本体コンクリート打設開始に向け、基礎掘削を進めています。併せて、管理用道路の工事等も施工中です。



玉来ダム完成予想図



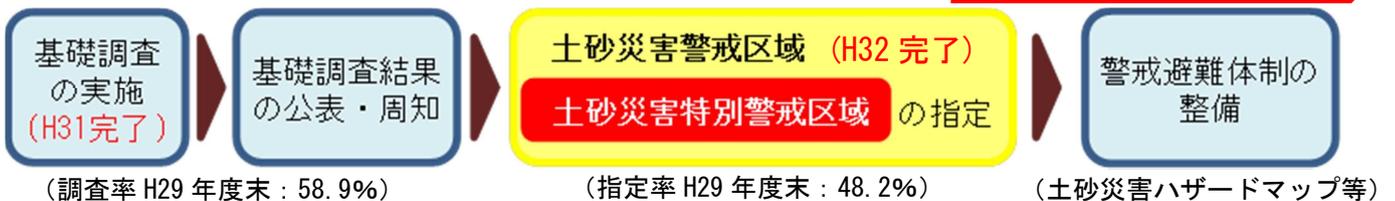
現在の状況 (H30.8時点)

玉来ダム諸元

型式：重力式コンクリートダム  
(流水型)  
堤高：52.0m  
堤頂長：145.0m  
堤体積：128,250m<sup>3</sup>  
総貯水容量：409万m<sup>3</sup>

●土砂災害警戒区域等の指定を加速し、警戒避難体制を早期構築

H29 調査箇所数 2,380 箇所



平成31年度の基礎調査完了に向け、平成29年度は2,380箇所調査を実施しました。また、土砂災害警戒区域にて市町村が行う警戒避難体制の整備を支援するため、土砂災害ハザードマップ作成支援ソフトの各市町村での導入支援を行うとともに、操作研修会を開催しました。



支援ソフトで作成した土砂災害ハザードマップ



支援ソフト操作研修会

ハザードマップ作成支援ソフト

インターネットを介して土砂災害警戒区域と避難所・避難路等を合成し、土砂災害ハザードマップを作成するシステム。

本システムを活用することで、従来に比べ、作成時間を80%以上縮減することが可能。

2 南海トラフ巨大地震対策

●護岸の耐震化や強化による大分臨海部コンビナートの強靱化

切迫する南海トラフ巨大地震・津波や台風による高潮に対し、大分臨海部への甚大な被害を最小化し、地域の安全・安心を守る必要があります。そのため、老朽化が著しい大分臨海部の海岸保全施設の防護機能強化を早急に行うこととなりました。

平成29年度は、国土交通省の「大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業」として新規採択され、4月より測量・調査・設計を行い、11月には一部区間の護岸改良工事に着手しました。

事業の早期完了を目指し、予算確保の取組を進めます。



「大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業」事業箇所図



「大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業着工式」の様子(平成29年11月12日)

●最優先啓開ルートの橋梁耐震化・法面崩壊対策

・公的機関・災害拠点病院等の広域的な防災拠点や救命活動に係る重要拠点を結ぶ「最優先啓開ルート」において、平成30年度までに道路法面对策を、平成31年度までに橋梁の耐震化を完了することを目標としています。本年度は国道502号外、20箇所の道路法面对策工事と、大在大分港線大在大橋外、14橋の橋梁の耐震化工事を実施します。

道路法面对策 国道502号(竹田市片ヶ瀬)



橋梁耐震化工事



●道路啓開の確実な取り組み

- ・大地震等により救命・救援活動を支える緊急輸送体制を早期に確保するための「道路啓開」を行うにあたり、「だれが、どこで、いつまでに、どのようにして」といった活動手順を具体的に定めた地区別実施計画を策定し、道路啓開の確実な実施に向けた取組を進めます。
- ・本年度は、豊後大野、竹田、玖珠、日田地区の計画を策定します。

### 3 「九州の東の玄関口」の強化

大分県は、九州と本州・四国との間を結ぶフェリーの約8割が発着しており、海路と九州各県を循環する陸路（高速道路）の結節点となることから、人の流れ、ものの流れの拠点として大きな可能性を有しています。平成28年度には、「九州の東の玄関口としての拠点化戦略」を策定し、観光や産業振興に向けた取組を推進します。

#### ●拠点化に向けた港湾の再編

- ・大分港大在地区

物の流れの基幹拠点として、平成28年度はRORO船の新規航路を誘致し、受入れに必要なふ頭用地を整備しました。今後もポートセールスを進め航路の充実と施設整備を進めます。

- ・別府港石垣地区

人の流れの基幹拠点として、フェリーターミナル港としての機能強化を図ります。



大分港(大在地区) 平成28年度 ふ頭用地の整備



別府港(石垣地区) 埠頭再編のイメージ

#### ●地域高規格道路の早期整備

- ・東九州自動車道・宇佐別府道路・大分空港道路

大分空港道路において、平成28年度から日出IC～安岐IC間の一部区間で4車線区間の延伸を推進しています。

- ・中九州横断道路

朝地～竹田間は平成30年度の開通を目標に整備促進を、竹田～阿蘇間は早期事業化を目指し、それぞれ国への要望活動を行います。

- ・中津日田道路

現在約26kmの区間（三光本耶馬溪道路、耶馬溪道路、日田山国道路）で整備を推進しています。



竹田までの整備が進む中九州横断道路



日田に向かって整備が進む中津日田道路

4 大分都市圏交通円滑化対策

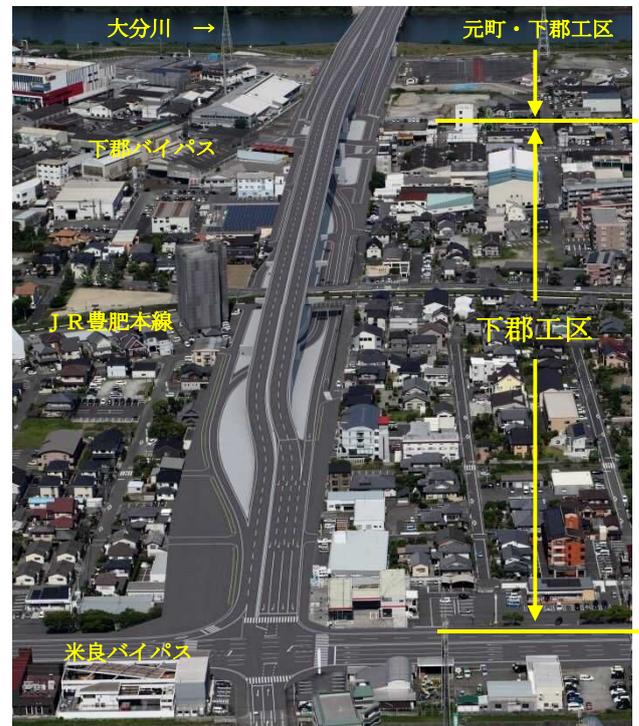
●(都)庄の原佐野線

本路線は、大分市内中心部での交通渋滞の緩和や高速道路へのアクセス強化を目的とし、整備を進めているところです。

宗麟大橋を含む「元町・下郡工区」は、平成30年1月14日に開通しました。

「元町・下郡工区」に続く下郡バイパスから米良バイパス間の「下郡工区」は、平成29年度から事業に着手しました。

平成30年度は測量・設計を進めていきます。



下郡工区 整備イメージ (暫定形)

●国道197号 (鶴崎拡幅)

大分市の志村～乙津間は自動車交通量が多く、大野川を渡る橋梁部などでも2車線しかなく、慢性的な渋滞が発生しています。

このため、平成27年度から4車線化の事業に着手しました。まずは、乙津工区の整備を優先し、整備を進めていきます。



まちなかの幹線道路で交通量が多く歩道整備が不十分

●国道442号 (宗方拡幅)

大分市の宗方・植田地区では、交通量が多く、沿線には商業施設が多く立地していますが、歩道が狭く途切れた区間もあり、交通安全対策が課題となっています。

このため、平成26年度から一部4車線化と歩道設置の事業に着手しました。平成29年度は、用地買収を進めています。



まちなかの幹線道路で交通量が多く歩道整備が不十分

## 5 道路空間の再生（リボーン）

## ●道路空間の再生（リボーン）とは

道路の拡幅のほか、既存道路幅を利用し交通実態に合わせた幅員の再配分や無電柱化、歩道舗装の再整備、街路樹の見直し、照明のデザインの統一、バリアフリー化などを実施し、都市景観を踏まえた幹線道路の再整備を行います。

## 国道197号（昭和通り）

「大分の街並みを引き立て、落ち着いた・品格のある昭和通り」の実現を目指して、リボーン197協議会から平成28年11月に10項目の提言が提出されました。この提言に基づき、平成29年度より、「交通安全事業 国道197号（昭和通り工区）」に着手しています。



## 国道500号（別府市鉄輪地区）

国道500号(別府市鉄輪地区)において、歩道の拡幅と無電柱化に向け、事業を進めています。



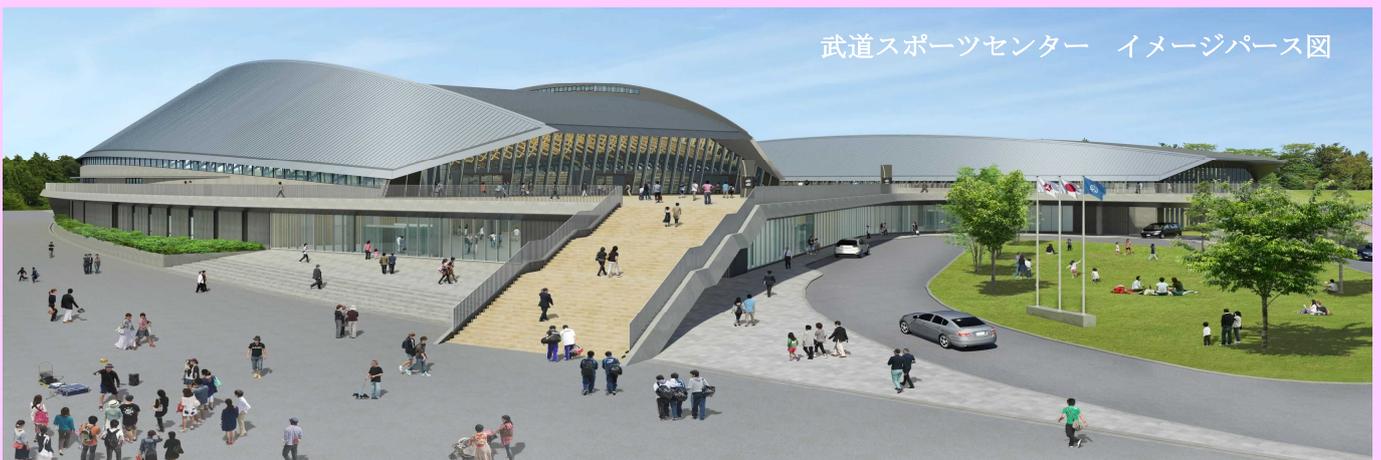
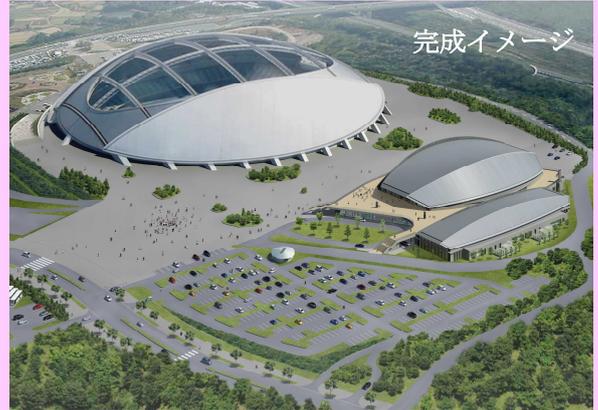
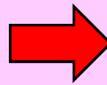
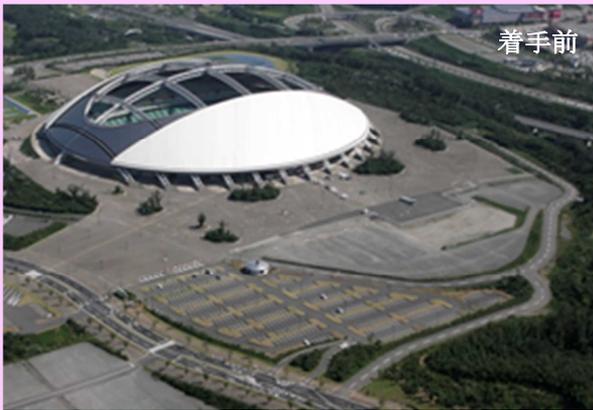
景観を損なう電線や電柱



整備後のイメージ

## 6 武道スポーツセンターの建設

ラグビーワールドカップ2019へ向けて、適切な工程管理を行い、早期完成へ向けて整備を行っています。ラグビーワールドカップ開催時には来場者の飲食スペース等としての活用を想定しています。



	平成28年度 2016	平成29年度 2017	平成30年度 2018	平成31年度 2020
武道スポーツセンター	実施設計 11月 本工事入札公告 ●	本契約 ● 基礎～躯体工事	屋根・外装工事 仕上工事	ラグビーW杯 9/20～11/2 ● 4月竣工 ラグビーW杯 仮設工事 ●



H30 進捗状況①(全景・屋根工事)



H30 進捗状況②(近景・屋根工事)



7 社会資本の集中的メンテナンス

●早期に対策が必要な社会資本の補修・補強対策を推進

本県では、高度経済成長期以降に集中して整備された社会資本が多く、今後、老朽化する施設が急増することが懸念されます。

平成26年までに完了した各施設の詳細点検の結果、早期対策が必要な施設が多数あることが判明したことから、その対策を着実に行う必要があります。

その後は、損傷が深刻化する前の軽微な状態のうちに予防保全型の維持管理により、将来の維持管理コストの平準化を図り、適切な維持管理に努めていきます。

●早期対策が必要な施設の対策率

1 巡目定期点検の結果から健全性の診断を行い、早期対策が必要な橋梁は815橋となっており、平成29年度に国道212号龍橋など143橋の対策を行い、これまでに橋梁714橋の対策が完了しています。

トンネルは、橋梁と同様に早期対策が必要なトンネルは200本となっており、平成29年度に梶寄浦佐伯線中浦トンネルなど24本の対策を行い、これまでに167本の対策が完了しています。

橋梁、トンネルの早期対策が必要な施設の補修対策は、平成30年度までに完了することを目標としており、平成29年度までの対策率は、橋梁87.6%、トンネル83.5%となっており、目標達成に向けて補修対策を引き続き推進しています。

橋梁・トンネルの損傷・補修事例

橋梁 県道大分大野線 雷橋(大分市)



Co剥離、鉄筋露出

対策：断面修復工  
(ポリマセメントモルタル)



ひび割れ

対策：ひび割れ注入工  
(エポキシ樹脂)



漏水、舗装段差

対策：橋面防水  
伸縮装置取替





トンネル 県道色宮港木立線 浦代トンネル(佐伯市)



Co剥落の恐れ

対策：剥落対策工  
(FRPメッシュシート)



覆工巻厚不足

対策：覆工補強工  
(炭素繊維シート)



漏水

対策：漏水対策工  
(止水及び導流路設置)





## 8 建設産業の魅力発信

### ●地域の安心・安全を支える建設産業のイメージアップ

建設産業は、地域の安心・安全を支え、快適な社会を構築するためには欠かせない重要な産業ですが、近年は若年入職者の減少が著しいことから、建設産業の魅力を伝えるイメージアップの取り組みを進めています。

#### おおいた建設人材共育ネットワーク



産業・教育・行政がともに手を携え、次代を担う建設人材を確保・育成するため、「おおいた建設人材共育ネットワーク」を平成28年11月に立ち上げました。

建設産業PR動画の制作・Web配信やセミナーの開催、「けんせつ小町座談会」などの取り組みを通して、建設産業の魅力発信を行っています。

#### 高校生向け建設現場体験学習会



産学官の連携の取組の1つとして、県内の土木・建築を学ぶ高校生を対象に現場体験学習会を開催しました。

県立屋内スポーツ施設新築工事や、中津日田道路（耶馬溪道路）の中津3号トンネル等の工事現場を見学しました。（県内で4校が参加）

#### 親子と土木のふれあい見学会



日頃近くで見られない土木工事をもっと身近に感じてもらうため、親子を対象とした現場見学会を開催しました。

H29.11.25（土）に、大分川に建設中の宗麟大橋とその周辺で現場見学会や土木を体験するイベントを実施、県内から親子510名が参加しました。